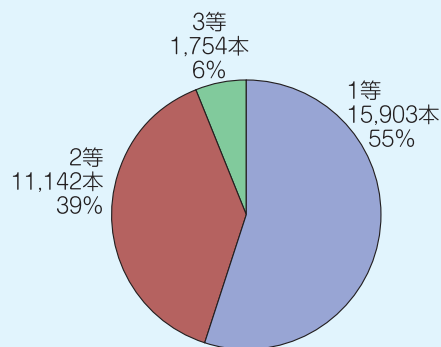
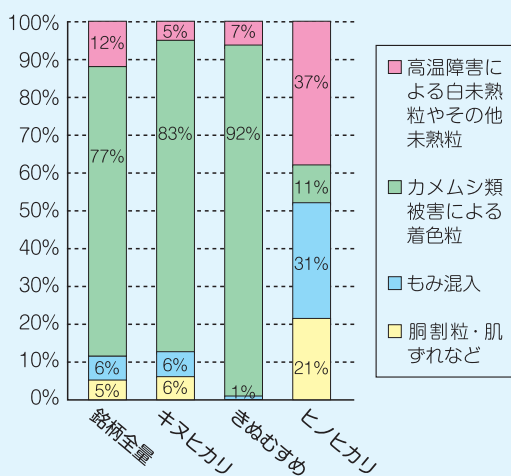


平成24年産米の報告

平成24年は、6月下旬以降日照時間が一時的に平年を下回ったものの、おおむね多照に経過したことから穂数はやや多くなりました。穂数がやや多かったことにより1穂当たりもみ数はやや少なくなり、大阪府の作況指数は「102」となりました。JA大阪北部の検査数量も約860tとなり、前年比124%と大幅に増えました。

等級別に見ると1等の割合は、平成23年産米が37%だったのが、平成24年産米は55%と半分以上になり、全ての銘柄において平成23年産米より品質が良くなりました。しかし、斑点米カメムシ類や高温障害による白未熟粒は、今後も増加していくと予測されますので、下記のとおり対策を行いましょう。

2等米以下に格付けされた理由の割合



検査数量の割合 (30kg/本)
平成24年12月1日現在

格付け理由別に見る平成25年産米の対策

斑点米カメムシ類

中山間地ではカメムシ類被害による着色粒(斑点米)での等級落ちが最も多くなっています。年によりカメムシの発生量は増減しますが、薬剤散布による防除が基本となります。スタークル粒剤やトレボン粉剤Dなどを適期に散布しましょう。カメムシの繁殖地となる水田周辺の雑草もこまめに草刈しましょう。

白未熟粒

平成24年は出穂期が高温になると白未熟粒(心白粒や腹白粒)が多くなってしまいます。中干しをして根の活力を高めて、栄養分を切らさないように追肥の量を極端に減らさないようにしましょう。収穫前には早めに水を落とさず、最後まで養分を吸えるようにします。

もみ混入

今年は比較的斑点米や白未熟粒はすくなかったものの、もみが混ざっていたために等級が落ちた、ある意味「もったいない」玄米が多くありました。もみが混入する理由は籾摺機の調整による場合があります。籾摺り機を使用する前に、ロール圧の調整やベルトの点検を行いましょう。また、もみの水分が高いと剥けにくくなるため、水分15%を目安に籾摺りを行いましょう。

営農

インフォメーション



EINO
information

平成25年の水稲栽培に向けて